

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創設 119 年目を迎える府立富田林高等学校に大阪府立初の(併設型)中高一貫校として併設された本校は、6 年一貫した教育を通して生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材(グローバル・リーダー)を育成することをミッションとし、未来に向けた挑戦を始める。

<中高一貫校としてめざす学校像>

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

<中高一貫教育を通して育みたい力>

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 各教科・科目において、中高一貫して学習指導要領の目標を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 45分×7限授業(高校全学年33単位)により、確かな学力の育成に取り組む。
- イ 「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。
- ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。
- エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。

(生徒向け)学校教育自己診断における授業満足度(平成30年度74%)75%以上をめざし、3年後に80%をめざす。

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) SSHとなり、中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進するとともに、進学実績の向上を図る。

- ア SSHとなり、科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を実施するとともに海外との交流を拡充することで、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識、及び自己実現意識を育成する。
- イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。
 - ・現役での国公立大学進学者の合格者数(平成30年度現役合格者数50名)について、2学級減になるため40名以上をめざし、今後段階的な学級減にあわせ、3年後には5.0人に1人の合格をめざす。あわせて難関大学(京都、大阪、神戸等)への受験者増をめざす。

(生徒向け)学校教育自己診断における進路指導の満足度(平成30年度82%)85%以上をめざし、3年後に90%をめざす。また、(保護者向け)学校教自己診断における進路指導の満足度(平成30年度82%)85%以上をめざし、3年後に90%をめざす。

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

- ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する
- イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。
- ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

・(生徒向け)学校教育自己診断の学校行事満足度(平成30年度95%)90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

- ア 国際交流(台湾、オーストラリア、タイ等)の充実
- イ ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流の継続
- ・グローバル人材の育成に向けた海外研修の実施

(生徒向け)学校教育自己診断結果で「国際交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力を身に付けた」(平成30年度88%)90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。

4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。

- ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る
- イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める
- ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する

(保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度(平成30年度86%)90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

- ア コミュニティースクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進
- イ 安全・安心な学校づくり
- ウ 地域貢献を推進

(生徒向け)学校教育自己診断における学校満足度(平成30年度91%)90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。また(保護者向け)学校教育自己診断における学校満足度(平成30年度95%)90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。

5 働き方改革の推進

(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。

- ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底
- イ ルーティン化していた校務の見直しによる業務の軽減化

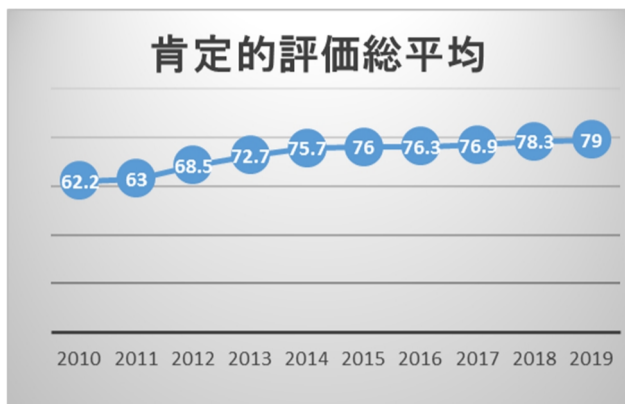
【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校教育自己診断結果の概要 「 」内の番号は「学校教育自己診断」の質問項目に対応。 生徒・保護者 ()内は昨年度 教員分も同様</p> <p><u>1 学校満足度</u></p> <p>(1) 生徒 「(29)富田林高校へ進学してよかった」・・・91.8% (90.9)</p> <p>(2) 保護者 「(28)富田林高校で学ばせることができてよかった」・・・93.3% (94.9)</p> <p><u>2 確かな学力の育成</u></p> <p>(1) 生徒 「(2)教員による ICT 機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」・・・93.5% (90.0) 「(3)内容を深く考えさせる授業が多い」・・・77.1% (76.5) 「(4)授業中は集中して先生の話聞いている」・・・85.0% (88.9) 「(9)家庭学習を毎日 90 分以上している」・・・64.2% (70.1)</p> <p>(2) 保護者 「(18)学校の学習活動への取組に満足している」・・・84.4% (87.1)</p> <p><u>3 進路実現</u></p> <p>(1) 生徒 「(7)理解度に応じて補講や講習が行われている」・・・70.7% (76.3) 「(13)進路希望達成に適切な選択科目が多い」・・・82.3% (82.3) 「(15)学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」・・・84.4% (81.5)</p> <p>(2) 保護者 「(8)学校の進路指導への取組に満足している」・・・79.8% (81.5)</p> <p><u>4 豊かな感性</u></p> <p>(1) 生徒 「(22)学校の人権教育は適切である」・・・90.6% (88.3) 「(23)学校行事に参加するのは楽しい」・・・94.8% (95.3) 「(27)学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」・・・90.5% (88.1)</p> <p>(2) 保護者 「(10)学校の人権教育への取組に満足している」・・・85.5% (82.5) 「(18)学校の学校行事への取組に満足している」・・・94.2% (95.1) 「(25)学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」・・・93.5% (95.1)</p> <p><u>5 保護者連携</u></p> <p>(1) 生徒 「(25)学校は HP・ブログやメールマガジンなどで情報をよく流している」・・・73.7% (70.8) 「(26)学校からの連絡を保護者に伝えている」・・・83.8% (81.4)</p> <p>(2) 保護者 「(13)学校は教育方針をわかりやすく伝えている」・・・83.7% (84.4) 「(14)学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けている」88.3% (88.5) 「(11)学校からの連絡は子どもを通じて把握している」・・・66.0% (67.4) 「(12)学校は HP・ブログやメールマガジンなどで情報をよく流している」・・・83.4% (85.5) 「(15)保護者説明会や学級懇談会の回数は適当である」・・・94.5% (93.5)</p> <p>教員</p> <p><u>1 教育活動</u></p> <p>「(6)教員の間で、授業方法等を検討する機会が多い」・・・80.0% (88.7) 「(9)ICT 機器を使った授業を行ったことがある」・・・80.0% (79.2) 「(10)主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を意識した授業をしている」・・・84.0% (83.0)</p> <p><u>2 学校経営</u></p> <p>「(1)校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」・・・96.0% (98.1) 「(2)学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」100.0% (96.2) 「(3)学校運営に教職員の意見が反映されている」・・・80.0% (52.8)</p>	<p>第 1 回 (5 月 17 日)</p> <p>学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成したい生徒像を中高一貫で共有すべきだ。中高一貫の連携、つまり同じ目標を設定することが全てだ。 ・富中高では組織的に教員の意識を高める工夫はあるのか？ 管理職や首席を含んだ「中高一貫教育推進委員会」で方針や方策を定め、それをさまざまな部署で共有・実行している。今年度は各部署の中高一貫の連携を強めたい。 <p>令和 2 年度以降の制服に係る検討状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標と制服制度がどう結びついているかを説明できるようにすべきである。 ・制服の常時着用について検討する際には、自由度、TPO、安全面、学校の管理面、LGBT などいくつかの視点がある。どんな視点で考えていくのかをもう一度整理して話し合うべきである。 ・LGBT については当事者の話・要望を聞くことも大事である。富高の今の服装規定であれば当事者は居心地がいいのではないかと。 <p>第 2 回 (11 月 29 日)</p> <p>制服制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長が生徒たちに、富高の制服制度の歴史について伝えたいと、教員と生徒会の間での協議を経て、制服の着用については現状維持と決定したが、現在の制度を作り上げた先輩たちの精神を今の生徒たちが継承できたのはよかった。 ・この伝統を引き継いでほしい。 <p>SSH の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH は現在 3 年目であるが、一期 5 年だけではなく、富高の「看板」として継続していかなければならない。 <p>第 3 回 (2 月 21 日)</p> <p>今年度の学校による取組みの自己評価を踏まえた学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談できる先生の数値が低い。 ・卒業生が地域に対してどうフィードバックしていくかが大切。 ・生徒の学力等、実態を把握することを念頭に置かなければならない。 <p>次年度の学校運営の基本的な方針について</p> <p>「令和 2 年度学校経営計画」を承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の課題は、中進生と高進生との融合。 <p>本協議会の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会は意思決定機関で、情報の共有はできている。 ・PDCA サイクルの D が不十分。協働する時間があれば協議会での話し合いもより深くできる。 ・生徒の様子をもっと見られるように、フレキシブルに少人数でもいいから集まりたい。 ・地域との橋渡しで貢献したい。

分析等

生徒からの肯定的評価は過去 10 年間、右肩上がりの微増を継続

年によっては質問数が増え表現も異なるが、全質問に対する肯定的評価の平均は微増を続けている。「(29)富田林高校へ入学してよかった」とする回答は 91.8%で、過去 10 年間で最高値を示し

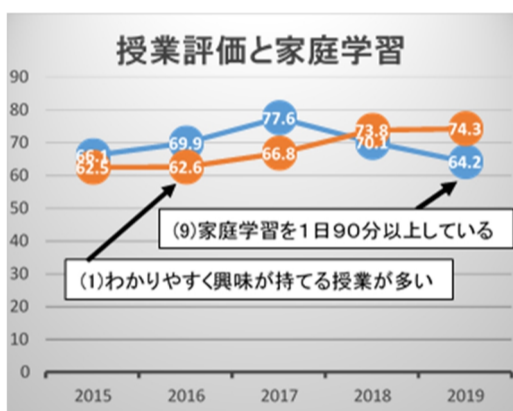


た。中高一貫校となって 3 年目、生徒たちからの否定的捉えの増加は、少なくとも総合的には窺えず、今後も教育活動を見直しながら取り組みを続けていく。

次に、学校経営計画に示す中期的目標のうち、「確かな学力の育成」「高い志を育み、進路実現をめざす」「豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力を育む」「地域・保護者との連携」の観点を踏まえ、結果を俯瞰する。

授業評価は改善傾向、一方で家庭学習時間等が減少

授業における「(1)わかりやすさ」に加え、「(2)ICT 機器の使用」や「(3)深く考えさせる」という点においても、ここ数年、顕著に評価は高まっている。また、「(10)探究・などの学習活動によって深く考える力、発表する力などが身につく」とする回答はこの 3 年間で 10%以上



も伸び、今年は 67.2%となった。ただし、中期的には改善傾向にあるものの、評価自体は極めて高いとは言えず、今後も学校全体の取組みとして授業改善に努める。

一方、家庭学習時間は減りつつあり、この 3 年間で 13%の減、「(6)予習・復習はしている」も 64.3% (2017 年) から 54.5% (今年度) へと 1 割近く減っている。学校と家庭で情報を共有し、生徒に啓発していく必要がある。

進路情報は適切、補講・補習が低下傾向

進路関連の項目の結果概要は次の通り。

- (13)進路希望達成に適切な選択科目が多い・・・82.3%
- (15)学校は進路についての情報をよく知らせてくれる・・・84.4%
- (16)目標を定め、それに合った学校生活を送っている・・・79.1%

情報提供(15)についての評価は過去 10 年で最高値となっているが、共通テスト導入など、高大接続関連についての情報提供が反映されていると思われる。目標設定(16)については肯定的な回答が増えるよう、今後も生徒を支援し励ます進路指導が重要である。

学力の育成に関する項目でもあるが、「(7)理解度に応じて補講や補習が行われている」回答については 2013 年をピーク(86.3%)に低下の一途をたどり、今年度は 70.7%で過去最低となった。自習室の利用も同じく 2013 年のピーク(43.3%)から今年度は 24.5%となっている。学習形態の多様化や、校務の多忙化などが影響を及ぼしていると考えられるが、生徒のニーズも捉えながら検討する必要がある。

学校生活に関する項目は高位横ばい、「相談できる先生」は増加

友人関係や行事への満足度は 90%を超え、いじめ対応や人権教育への肯定率も 90%前後となっている。教員との関係性は 83%が満足し、「(18)相談できる先生がいる」はこの 10 年間で着実に増えてきている(2010 年度 30% 今年度 67%)が、まだ改善の余地は大きい。

学校からの情報発信は横ばい、保護者の関与意欲は過去最高

学校からのホームページなどによる情報発信については、過去 5 年間をみると保護者からの評価は 80%を大きく超えるが、生徒からは 70%程度の評価で推移している。また、生徒自身は「(26)学校からの連絡を保護者に伝えている」意識は過去最高(83.8%)となっているものの、保護者側からは、「(11)学校からの連絡は子どもを通じて把握している」66.0% (67.4)と、両者の捉えにやや開きがある。情報発信について、今後も内容はもとより、頻度、即時性などを踏まえて改善に努める。

保護者への質問項目の「(16)学校のボランティア要請には積極的に協力」については、58.1%と過去 10 年での最高値となり(昨年度は 53%)、心強く感じる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 各教科において中高一貫して学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。</p> <p>エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p>	<p>ア 45分×7限授業（高校全学年33単位、）により、学校生活をデザインする。</p> <p>イ・年度当初に教科ごとに「アクティブ・ラーニング」の取組みを検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の中高合同の研究授業を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう。 ・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。 ・ICT環境の一層の充実を図るとともに、全教科でICT機器を活用した授業を展開し、成果を生徒用学校教育自己診断で測る。 <p>ウ・英語のすべての科目でICT機器を活用した4技能統合型の授業を展開し、実践的な英語運用能力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生では毎朝10分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、リスニング・スピーキング能力の向上を図るとともに、毎日実施できるよう教室の環境を整備する。 ・2年生では毎朝10分間を、数学（週1～2回）と英語（週3～4回）の学習に充てる。 ・高校1・2年生全員に英語能力試験（外部試験）を実施する。 <p>エ 家庭学習記録ノートを作成することで、家庭での学習時間を増やす。</p>	<p>ア（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度（平成30年度74%）75%以上をめざす</p> <p>イ・（教員向け）学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を意識して授業をしている。」（平成30年度83%）85%以上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科研修期間を設け、すべての教科で研究授業が実施できたか。また、年に2回の研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。 ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成され改善がすすんだか。 ・ICT機器を効果的に活用した授業ができたか。（教員向け）学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」（平成30年度79%）80%以上をめざす。（生徒向け）学校教育自己診断「教員によるICT機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」（平成30年度90%）90%以上を維持する。 <p>ウ・1・2学年全員が英語能力試験（GTEC）を受験し、その技能別結果を「見える化システム」に入れ、全生徒が活用できたか。</p> <p>エ（生徒向け）学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均（平成30年度70%）75%をめざす。</p>	<p>ア（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度が74.3%で昨年度比微増となったが、掲げた目標には至らなかった。（ ）</p> <p>イ・（教員向け）学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を意識して授業をしている。」も84.0%で昨年度比微増となったが、目標には至らなかった。（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高合同の「授業改革推進チーム」が中心となって地域公開研究授業を実施し（11月21日）、高校は「世界史」「数学」「物理」「英語」などの授業を公開し授業研究を進めた。また校内において10月21日から11月21日までを授業交流週間として設定し、教員間での改善機運を作り出した。（ ） ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員で結果を分析。それを踏まえて授業改善シートを作成し、各自の授業改善に活用した。（ ） <p>・（教員向け）学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」は80.0%で目標を達成。（ ）</p> <p>（生徒向け）学校教育自己診断「教員によるICT機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」は93.5%と目標を十分達成した。（ ）</p> <p>ウ・1・2学年全員が英語能力試験（GTEC）を受験したが、その技能別結果を「見える化システム」に反映させる仕組みについては、次年度に構築する。（ ）</p> <p>エ（生徒向け）学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」については3学年平均が64.2%と目標には遥か及ばず、今後の大きな課題として残った。（ ）</p>

府立富田林高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1) SSHとなり、中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進するとともに、高校では6年一貫教育の結果としての進学実績の向上を図る。</p> <p>ア SSHとなり、「総合的な学習の時間」では、「地域と連携した探究貢献活動」を実施するとともに海外との交流を拡充することで、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識、及び自己実現意識を育成する。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役での国公立大学進学者の合格者数(平成30年度現役合格者数50名)を3年後に5.0人に1人の合格をめざす。 	<p>ア・本校のSSH(開発型)の目標(課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発)を具現化するプログラムを開発し、その成果を分析できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSHとして、1年次の「探究」において、地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には学年での発表や地域フォーラムを開催する。 <p>イ・3年生は基礎基本的な知識の定着を図るため、毎朝10分間小テスト(英・数・国)を実施するとともに、実施に向けて教室の環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を作成し、全生徒が活用し、将来の目標を早期に発見させる。 ・生徒・保護者に適切な進学説明会を継続して実施する。 ・進学講習を充実する。 	<p>ア・SSHとして本校の到達目標を具現化するプログラムによる生徒の成長をPROG(リテラシーテスト)等で分析できたか。</p> <p>(生徒向け)学校教育自己診断「富高Eタイム」などの探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた。」(平成30年度64%)65%以上をめざす。</p> <p>(教員向け)学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた。」(平成30年度58%)60%以上をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)を巻き込んだ地域フォーラムが開催できたか。また府外の学校からも参加者を集めることができたか。 <p>イ・生徒の「見える化システム」の利用率100%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学級減になり、国公立大学現役合格者数を40名以上をめざす。 (生徒向け)学校教育自己診断における進路指導の満足度(平成30年度82%)85%以上を維持する。 (保護者向け)学校教自己診断における進路指導の満足度(平成30年度82%)85%以上をめざす。 ・2学年後半から計画的に進学講習が実施できたか。(国・数・英) 	<p>ア・本校の学校教育目標を具現化するSSHのプログラムの取組みを進め、その成果として、大阪サイエンスデイにおける最優秀賞や大阪学生科学賞(最優秀賞他)など、多くの賞を受賞した。</p> <p>()</p> <p>また、プログラムによる効果をPROGによって分析し、SSHの探究活動によって生徒のリテラシーが向上していることが確認された。()</p> <p>(生徒向け)「『探究・(富高Eタイム)』などの学習活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身につく」は67.2%と目標を十分達成できた。()</p> <p>(教員向け)「生徒は探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた」は80.0%で目標を大きく上回った。()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を一層強化した「地域フォーラム」は今年度より全校生徒が参加する行事となり、連携団体も昨年度より2団体増え、27団体が参加して3月7日に実施する予定であったが、コロナウイルス感染症の影響で中止となった。ただし、「ひろとん(市民活動わくわく広場)」に参加するなど、学校外での生徒による地域連携は促進され、社会への貢献意識・自己実現意識の育成につながった。() <p>イ・「見える化システム」を全生徒が活用できた。()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(生徒向け)学校教育自己診断における進路指導に関する項目において、「進路希望達成に適切な選択科目が多い」が82.3%、「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」が84.4%と未達ではあるが、昨年度値から上昇し、概ね目標を達成した。() 国公立大学現役合格者数は45名となり、目標を上回った。() ・(保護者向け)学校教自己診断における進路指導の満足度は79.8%と目標をやや下回ったものの一定の水準は維持できている。() ・2年生は修学旅行(10月)以降、計画的に進学講習を行っている。()
---	---	--	---	---

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。</p> <p>ア 学校教育目標で設定した<育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。</p> <p>ア・国際交流(台湾、オーストラリア、タイ)の充実を図る。</p> <p>イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流の継続 ・グローバル人材の育成に向けた海外研修の実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。 文化祭・体育祭における準備委員会を一層活性化させる。 修学旅行や遠足等校外学習を3年間見通した計画を立てることで、内容の充実を図る。 部活動への参加を奨励する。</p> <p>イ・これまでの人権研修の実施計画を見直す。 ・挨拶、遅刻指導の充実と生活マナーを向上させる。 ・式(入学、卒業、始業・終業など)での標準着用指導。</p> <p>ウ 中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 台湾やオーストラリア、タイをはじめとする様々な国の生徒との交流の充実を図る。</p> <p>イ・オーストラリアの姉妹校との交流を充実させる。 ・新たな修学旅行先であるベトナムにおける学校交流で英語での課題研究の発表をする。 ・オーストラリアのクイーンズランドで課題発見・解決能力を高める海外研修(グローバルリーダー育成研修)を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒向け)学校教育自己診断結果における行事満足度(平成30年度95%)90%以上の維持をめざす。 ・部活動加入率(平成30年度88%)90%をめざす。</p> <p>イ 時代のニーズに合致した人権研修の実施。 ・(生徒向け)学校教育自己診断結果における人権教育満足度(平成30年度88%)90%をめざす。 ・(生徒向け)学校教育自己診断結果における校則遵守率(平成30年度97%)95%以上を維持する。</p> <p>ウ (生徒向け)学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度(平成30年度86%)90%をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア 多くの生徒が海外の高校生と交流できたか。</p> <p>イ・オーストラリアの姉妹校と交流ができたか。 ・修学旅行先であるベトナムにおける学校交流で英語での課題研究発表ができたか ・海外研修の参加者への研修後のアンケートで、研修満足度(平成30年度100%)100%を維持。 (生徒向け)学校教育自己診断「国際交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力を身に付けた」(平成30年度88%)90%以上をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒向け)学校教育自己診断結果における行事満足度は94.8%と高水準で維持している。()</p> <p>・部活動加入率は92%となり、目標を達成した。()</p> <p>イ ・(生徒向け)学校教育自己診断結果における人権教育満足度は90.6%で、目標を達成した。()</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果における校則遵守率は97.1%と目標通り維持できている。()</p> <p>ウ(生徒向け)学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度は86.3%と昨年度値を上回ったが、目標にはわずかに届かなかった。()</p> <p>(2)</p> <p>ア タイ及び台湾からの訪問団を受け入れ、交流活動を行った。()</p> <p>イ・姉妹校の Leeton HS から生徒・教員合わせて18名を1週間受け入れ、交流を深めた。() ・ベトナム修学旅行における現地校との交流活動の中で、英語での課題研究発表を行った。()</p> <p>・海外研修の参加者への研修後のアンケートで、研修満足度は100%と目標を達成した。()</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」は90.5%で、目標を達成した。()</p> <p>・オーストラリアのクイーンズランド大学等で実施した海外研修は参加者の満足度も高く、大きな成果を収めた。</p>
--	--	---	---	---

府立富田林高等学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。 ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。 イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。</p> <p>(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。 ア コミュニティースクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。 イ 安全・安心な学校づくりに努める。 ウ 地域貢献を推進する。</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 ・中高一貫教育の観点で再編した分掌(中高一貫創生部)を機能させる中で、人材育成を図る。 イ 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。 ウ 中高一貫校としてふさわしい学校ウェブページとし、積極的で効果的な情報発信をする。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、より広く保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。 ・「めざす学校像」の共有化を図るとともにコミュニティ・スクールについて情報収集及び研修を行う。</p> <p>イ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。 ・教育相談係による情報を収集し共有する。 ウ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究」の成果発表会である地域フォーラムの開催 ・地域貢献活動の実施</p>	<p>(1) ア・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能させることができたか。 ・継続的な人材育成が「創生部」の取組みとしてできたか。 イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか。 ウ 中高一貫校としてふさわしい学校Webページから積極的で効果的な情報発信ができたか。 (保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度(平成30年度86%)85%以上を維持する。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会を設置し、より広く保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画し、意見交換が十分にできたか。 ・(生徒向け)学校教育自己診断における学校満足度(平成30年度91%)90%以上を維持する (保護者向け)学校教育自己診断における学校満足度(平成30年度95%)90%以上を維持する。 イ (生徒向け)学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度(平成30年度65%)70%をめざす。 ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができたか。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究」の成果発表会である地域フォーラムを開催できたか。 ・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</p>	<p>(1) ア・中高一貫教育の推進に向けて、中高それぞれの対応する分掌が協働的に取り組む実態があった。() ・授業改善や国際交流、海外研修などにおいて、ミドルリーダーが力を発揮する取組みが展開された。() イ 府外の先進校を中高の教員が訪問し、その成果を職員会議などにおいて中高全教職員で共有できた。() ウ 学校ウェブページなどによる情報発信に努めた結果、府内の高校だけでなく、他県の学校からの問い合わせもあり、複数校の視察を受け入れた。 (保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度は83.4%と目標を若干下回った。()</p> <p>(2) ア・学校運営協議会にはPTAをはじめ、地域住民等が委員として参加され、学校運営に向けた意見をいただいている。制服の在り方等については協議会、生徒、教職員の合議で決定することができた。() ・(生徒向け)学校教育自己診断における学校満足度「富田林高校へ進学してよかった」は91.8%、(保護者向け)学校教育自己診断における学校満足度「富田林高校で学ばせることができてよかった」は93.3%と目標を達成した。() イ (生徒向け)学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」は66.7%と、昨年度値を上回ったものの、目標値には届かなかった。() ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができた。() ・総合学習の成果発表会である「地域フォーラム」を3月7日に予定し準備も完了していたが、コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休校措置により、実施できなかった。() ・河川清掃などの地域でのボランティア活動(「石川大清掃」)を3月1日に行う予定だったが、主催者側が中止とし、参加できなかった。()</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。 ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底 イ ルーティン化していた校務の見直しによる業務の軽減化</p>	<p>(1) ア 各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、本校のノー残業デーである金曜日の職員朝礼でのアナウンス及び17時以降における退勤の職員間での声掛けを励行する。 イ 各種研修などの実施時期や実施時間帯を見直したりこれまでルーティン化していた行事を廃止するなど、校務を見直すことで業務の軽減化を図る</p>	<p>(1) ア・ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。 イ・校務の見直しを図ったか。 ア、イとも、(教員向け)学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度(平成30年度81%)85%以上をめざす。</p>	<p>(1) ア 職員朝礼などでも適宜、ノー残業デー等を周知し、時間外勤務の縮減に努めた。() イ 情報共有を図る手段を一新し、職員朝礼を一旦中止するなど校務全般を見直し、次年度からの取組みにつなげた。() (教員向け)学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度は84.0%で、目標にはわずかに届かなかった。()</p>